

2 0 2 3 年 度

(令和 5 年度)

事業計画

学校法人 京都橘学園

2023 年度事業計画

京都橘学園は、第2次マスタープラン（2019～2022 年度）において教育保育で評価される総合学園となり、大学においても関西における私立中堅大学としての評価を確立してきました。2023 年度から開始する第3次マスタープランは、その成果のもと学園の本来の強みを再認識し、これまでの評価を強固にするとともに、新たな価値の創出にむけた基盤を構築する役割を担います。第3次マスタープランは、再確認した学園の存在理由および改革の合言葉となる事業目的、2023 年度から 2027 年度までの5年間の学園の成長の方向性となる中期的な戦略目標および定量目標、重点課題で構成します。これらの他、各部門における課題や各種の定量的な達成指標は、第3次マスタープランと連携しつつ、実行していきます。

第3次マスタープランの事業目的は「学びで世界を変える」としました。既成概念に捉われない、時代に先駆けた各種改革を実行し、「よりよい学びや経験を提供し、学生・生徒・園児等が触れる世界を変える」「これまでにない新たな価値を提供し、人々が住む世界をより良い世界に変える」ことをめざします。

京都橘大学においては、中期的な戦略目標として、情報教育研究および遠隔教育の充実、医工連携の強化、教育の創造の3つを掲げ、定量目標として、通学課程学生数規模 8,000 人、通信教育課程学生数規模 2,000 人を目指します。重点課題は、2024 年の工学系研究科、2026 年のデジタルメディア系学科、ロボティクス系学科、臨床工学系学科の新設の他、医工連携のさらなる展開、新たな学びや教育の展開、総合的な国際化の実行、成長し続ける組織の構築などを掲げ、2023 年度から実行していきます。

京都橘中学校・高等学校においては、2023 年度から中学校募集を 60 人から 90 人とし、2025 年度には生徒数約 1,300 人の学校を実現し、「自立」「共生」の教学理念のもと、夢に向かってチャレンジする生徒を支える学校教育をめざします。

たちばな大路こども園においては、開園5年目を終え、草津市の中でも入園希望が高い園として評価されるようになりました。今後も、「自立」「共生」の教学・保育理念のもと、心身とも健やかな子どもの成長を支える教育・保育をめざします。

1. 京都橘大学

(1) 教育活動の推進

- ・教育の質保証を推進するための施策として、ポータルサイトシステムを活用した学生の自己省察を促す履修指導を実施します。また、効果的な遠隔授業の実施に向けて、ファカルティ・デベロップメント活動を推進し、遠隔授業を含むカリキュラム全体の学習効果を高めます。
- ・文学部においては、2017 年度から始動した文学部改革について、引き続き充実した体験型学習プログラムを計画し、キャリアに強い人材の育成をめざします。また、2017 文学部改革の到達点と課題を精査し、今後の教育課程の充実策を検討します。
- ・国際英語学部においては、「グローバルビジネス」「グローバルツーリズム」「国際教養」の3つのコースに整理した新カリキュラム導入の3年度目を迎えます。海外留学の安全管理確認を行い、2回生前期から S A P (Study Abroad Program) を実施し、帰国後の学びをさらに充実させます。
また、国際政策推進をふまえ、海外協定校の新規開拓を強化します。
- ・発達教育学部においては、児童教育学科と教職保育職支援室との連携を強化し、全国トップレベルの質の高い教職・保育職の養成をめざすとともに、公立幼稚園教諭、公立保育士および公立小学校教諭の合格率向上をめざします。また、2023 年 9 月より現在の教職保育職支援室を教職保育職支援センター（仮称）に組織変更を行い、保育職志望者および中等教職課程を含む教育職志望者のサポートを強化します。
- ・経済学部、経営学部、工学部においては、開設3年目の開講を進めます。学部間の連携については、引き続き各学部学科の特長を活かした3学部合同の PBL の取組みを推進します。LA を効果的に活用し、学習支援を強化す

るとともに、各学部学科の中心となる学生集団の形成をめざします。間近に迫る1期生の就職活動について、キャリアセンターと連携し、支援体制を強化します。さらに、アントレプレナーシップ教育の支援体制を検討し、教育において魅力ある学部となるよう取り組みます。

- ・看護学部においては、DX教材の活用を積極的に行いながらシミュレーション教育を実施します。また、厚生労働省が進める地域包括ケアシステムの整備にも対応し、地域連携の強化に向けた教育プログラムを進めます。
- ・健康科学部においては、引き続き総合心理学部総合心理学科と他の4学科の教育連携を進めることにより、人々の心身の健康課題に向きあえる引き続き医療職養成をめざしています。また、客観的臨床能力試験（OSCE: Objective Structured Clinical Examination）を積極的に活用しながら、臨床現場でより力を発揮できる教育課程を展開します。
- ・2023年4月より新たに開設される総合心理学部総合心理学科においては、データサイエンスに関する基礎教育を充実させつつ、自己理解、自己表現についての学びを深めさせ、心理学の研究法の基礎を身につけることができる様着実にカリキュラムを実行します。
- ・心理学科通信教育課程においては、国家資格である公認心理師の取得をめざす学生を支援しつつ、社会人が仕事や家庭、地域活動などの場面で広く活用できる心理学の知識とスキルが身につく教育課程を展開します。また多様な地域から学生を受け入れ、本学の教育を広く展開します。
- ・大学院においては、健康科学研究科博士前期課程において新たに開設する作業療法学コース・臨床検査学コースのカリキュラムを実行するとともに、2024年度より博士後期課程にこれらのコースの知見を生かした科目の新設を検討します。

（2）研究活動の推進

- ・研究推進・研究支援政策のための組織を整備し、新たな研究分野として情報系研究センターを設置します。
- ・科学研究費等の外部資金の獲得に積極的に取り組みと共に、研究倫理教育および研究不正防止教育にも積極的に取り組みます。
- ・京都市および滋賀県などの自治体や企業、他研究機関との連携による学部学科の特色を生かした研究活動を推進し、研究成果を還元します。

（3）学生支援活動の推進

- ・教学部門などの他部局との連携をはかり、スポーツ強化による全学的教育展開として、正課授業への取り組み、リーダーシップや豊かな人間性の涵養など、競技力向上だけでなく全方位的な成長支援を強化する。
- ・強化クラブの活動においては、強化支援が本格稼働するビーチバレーを含めて、各クラブの期首目標（リーグ戦、コンクールにおける成績など）を達成できるよう重点的に支援します。
- ・一般のクラブ・サークル活動においても、集団で活動する経験により、社会生活で必要な力を獲得できるよう活動支援を充実させるとともに、学園HPや課外活動紹介パンフレットなどを通じて社会や受験生へに積極的に情報発信します。
- ・学生への経済支援においては、国の「高等教育の修学支援新制度」を適切に運用するとともに、これと連動した本学独自の奨学金制度、経済援助給付奨学金等制度の活用に取り組みます。
- ・学部学科やアカデミックセンターなどと「サポートリンクス」の学内連携を強化し、障がい学生に対する支援の充実を図ります。また、各学部のアドバイザーや学生相談室、医務室とともに包括的な学生支援に取り組みます。
- ・社会に貢献できる学生の育成に向けて、正課内外における学生の自主的活動を支援し、主体性を育てます。

（4）就職支援活動の推進

- ・新設した3学部が就職年次を迎えるなか、多様な学生の個性を生かし、挑戦的に進路先候補を広げられるよう、学内セミナー参加企業の拡充をはかるとともに、学部学科のキャリア対策と連携して低回生からの学生の参加を促進します。
- ・キャリアガイダンス、各種講座やセミナー、個人面談を通して、学生一人ひとりに就活実践力がつくよう支援します。
- ・低回生からの就業意識醸成と社会人基礎力の育成をめざし、社会との関わりの中で学生の意欲や主体性がより発揮されるインターンシップ・プログラムを計画推進します。
- ・U・Iターン就職協定を締結する府県市との関係強化を一層進め、地方企業に対し本学の存在を周知する取り組みを進めるとともに、東京での企業開拓、就職支援を推進します。
- ・チャレンジ意欲の高い学生の就活支援を充実させるため、公益財団法人経済同友会との事業連携を継続し、経済同友会が実施するインターンシップへの参加を促進します。
- ・医療系学科と事務局が連携し、国家試験合格率100%に向けた国家試験対策を行います。
- ・行政職・公安職への就職支援を強化すると共に、人文・社会科学系学科の公務員試験支援対策を強化します。

(5) 地域連携の推進

- ・地域の金融機関等と協力したサテライトキャンパスの試みやたちばなサイエンスデーなど地域のニーズに応える取り組みを行います。
- ・地域のコミュニティーを活性化するために山科での「陶灯路」や「こども食堂」などを近隣自治体や地元の商業施設との連携によって行い、本学の教育研究とも関わる取り組みを展開します。

(6) 学生募集および広報活動の推進

- ・京都の私立総合大学としてのブランドイメージを確立するとともに、本学らしさを強調した広報を展開します。また大学の動きをニュースとして積極的に配信するとともに、ステークホルダーの興味や関心、共感を引き出す広報を目指します。
- ・学生募集活動においては、国際から人文、教育、社会、工学、医療系まで幅広い分野にわたる京都橘大学の教育研究実績を丁寧に伝えつつ、他大学には無い特長を前面に出した広報を展開し、大学全体のブランド力向上を図ります。第3次マスタープランの学部新設を踏まえ、工学部募集広報を重点課題とし、志願者増加を目指します。
- ・2023年度入試の状況を分析し、実志願者増と確実な入学者数確保のための入試制度改革設計を検討します。

(7) キャンパス整備の推進

- ・文理に渡る多彩な学びを实践し、地域の安全安心に貢献する開かれた次期キャンパス施設設備の整備を計画します。
- ・学園最大規模のスポーツ施設「KYOTO TACHIBANA スタジアム」を運用し、学園のスポーツ振興を促進するとともに、教育・研究・地域交流活動の創造拠点として活用します。
- ・既存施設においては、学生数増に対応したアメニティ施設の再整備について、幅広く意見を聴取しながら計画します。
- ・人文系から社会科学系、医療系、工学系の学部学科を持つ大学として、図書や電子媒体を含む今後の蔵書のあり方や教育研究支援の方法を検討し、蔵書スペースの拡張とコモンズ機能の整備を図るために図書館の改修を行います。新たな図書館での学生の運営参加やまちライブラリの充実なども計画します。

(8) 総合大学を支えるステークホルダ拡充

- ・私立大学の発展にとって最も身近で継続的な支援者は卒業生組織であり、今や卒業生数30,000人に達し、その規模にふさわしい同窓会政策を計画します。

2. 京都橘中学校・高等学校

(1) 文武不岐の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

- ・生徒たちが学業およびクラブ活動に励み、それらを計画的に進められるよう学習指導・進路指導を行い、夢に向かってチャレンジする生徒を支え、進学実績の向上とクラブ活動の活性化を図ります。
- ・中高一貫校としての強みを活かし、社会に貢献する人材育成に向けて、新学習指導要領を踏まえて策定した、新しいカリキュラムに基づく教育実践を行い、探究学習を中心に自ら調べ自ら考える力を養成します。
- ・学校カウンセラーの配置、学校医等による定期検診、インフルエンザ予防ワクチン接種の校内実施、引き続き新型コロナウイルス感染症への注意を払い、生徒の心身両面での安心安全を図り、満足度の高い学校生活を実現します。
- ・生徒指導部を中心に生徒の規範意識を向上させる指導をし、落ち着いた校風を継承し発展させます。また、地域からの生徒指導要望への的確な対応、生徒憲章の浸透、安心安全な学校づくりなどを進めます。
- ・授業アンケートの実施と分析、校長による授業見学、外部教育機関実施（オンライン含む）の各種教育研究セミナー・進路指導セミナーへの参加、学校主催の教育研究集会の開催、本校が契約するオンライン研修ツールの活用、教員研修推進チームによる定期的な研修活動など、教員の教育力・進路指導力とチーム力の向上を図ります。

(2) 進学実績で生徒募集域でのトップ50に入る高校の実現

- ・通常授業の充実を図るとともに、ASTM(After School Tachibana Method)の取り組みをさらに発展させ、進学実績目標を達成します。
- ・思考力・判断力・表現力を一層重視する「大学入学共通テスト」が行われ、推薦入試では、小論文、プレゼンテーション、主体性等を評価するための面接を導入されるなど、より多面的な方法による選抜が増加しています。また、2025年には「情報」の共通テストも始まります。それらの入試に対応するための対策講座の実施や最新の情報を提供するための様々なガイダンスを引き続き実施します。
- ・模試分析会を実施し、最新の模試データを活用した進路指導や分析結果に基づいたタイムリーな学力向上施策を実施します。
- ・タブレット端末を導入し、授業や放課後・家庭学習および日々の学びや活動の記録等にICTを活用した新しい教育の形を構築していきます。
- ・自習環境の整備を進め、自学自習力のさらなる向上を目指します。
- ・特進系コースの学力向上だけでなく、すべてのコースの生徒の学力を向上させ、公募推薦・一般入試における合格者数増を目指すことで、進学実績の向上を図ります。
- ・特別進学(E)コース、総合進学(A)コース、中高一貫(V1)コースにおいて、京都橘大学への内部推薦および指定校推薦の積極的な活用により、進学実績の向上を図ります。
- ・京都橘大学への内部進学者数を安定して増やす取り組みを進めます。

(3) 日本一を目指すクラブの育成等

- ・全国大会に出場する機会の多い高等学校の女子バレーボール部、男子サッカー部、陸上競技部、吹奏楽部、太鼓部の5つのクラブについて、日本一になるための支援を引き続き行います。併せて、既存クラブのさらなる活性化を進めます。

(4) 募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

- ・来校者が安心して参加できるオープンキャンパス、学校説明会や「ドリーム☆スクール」などを企画し、志望者が本校に来校いただくことで本校の魅力を感じてもらい、志望者増を図ります。
- ・塾訪問活動の強化、全教員による中学校訪問の継続、外部での本校主催学校説明会の開催、学校案内、SNS、

ホームページ、新聞広告などの有効活用を図り、本校の認知度向上、志望者増を図ります。

- ・学力の高い志願者獲得のための中高の特別奨学生制度を継続するとともに、中学校の自己推薦型のプレミアム入試・適性検査型入試、高等学校の後期入試などの継続もしくは新たな入試制度の検討を行います。
- ・進学実績を高めるとともに、特別奨学金を適切に運用し、選抜類型への志願者を増加させます。
- ・生徒募集情勢の分析とその対応をすばやく行うため、塾や関連機関からの情報を的確に分析し、検討します。
- ・上記の取組みにより、中高の生徒数約1,300人の学校を実現します。

(5) 伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現キャンパスの長寿命化および魅力化計画を策定し、実行します。
- ・約1,300人規模の学校を安定的に維持するために既存建物改修による普通教室増および新規建物の建設を行います。

3. たちばな大路こども園

(1) 安定した教育保育の提供

- ・「自立・共生」の教育保育理念をもとに、質の高い教育保育の提供をめざします。
- ・園庭の天然芝、緑あふれる丘の園舎で、園児が自然に触れ、生き生きと過ごせる教育保育環境を整えます。
- ・日々のコミュニケーションを通じて保護者と連携し、家庭と園が一体となって子どもたちの発達を保障することも園をめざします。

(2) こども園職員の資質能力の向上

- ・京都橘大学教員を講師に招き、特色ある質の高い保育研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・京都橘学園に新たに設置される保育事業部と連携を行い、園内外でのキャリア開発研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・こども園職員を外部研修に参加させ、さらなる資質能力の向上をめざします。

(3) 子育て支援事業の実施

- ・地域に根ざしたこども園をめざします。子育て支援事業として、未就園児を対象に園庭開放や親子体験教室、一時預かり保育事業を実施します。また2歳児向けの子育て支援教室を定期開催し、地域密着の子育て支援を実施します。

4. 学校法人京都橘学園

(1) 学園のブランド力の強化

- ・学園創立120周年事業において確立したブランド価値を、学園の今と教育・保育モデル、学生・生徒・園児活動、キャンパス等の魅力化、寄附事業などの次期周年事業において、引き続き社会へ発信します。
- ・第3次マスタープランを実行に移し、その方向性や到達点、およびプロセスを積極的に社会へ伝え、新たな学園ブランドを構築します。
- ・スポーツ系クラブの強化や、中高大および地域との連携などを引き続き進め、学園スポーツ振興の価値を学内外に生み出します。

(2) 総合学園を支えるガバナンス体制整備

- ・総合学園として持続的発展し、経営を支えるガバナンス体制の構築をめざします。私立学校法改正の動向を注視し、本学園におけるガバナンスコードを策定します。
- ・役員の職務及び責任の明確化、理事・監事・評議員会に係る運用整備等、本学園におけるガバナンス上の課題への対応を図ります。

(3) 事務局整備、職員育成の推進

- ・9学部15学科となった大学教学組織の規模拡大に伴い、継続して必要な大学事務組織を再編します。また、事務局体制強化のため、職員採用の強化および次世代の職員の育成を推進するための人事マネジメントを計画します。

(4) 改革を支える学園財政の構築

- ・私立大学を取り巻く環境はさらに厳しさを増す中、補助金、受託研究費等の外部資金、寄付金や施設使用料など、学費収入と合わせて多角的な収入の確保をめざします。
- ・年に1回、その時点における土地取得や建物計画をアップデートした財務シミュレーションを理事会に説明し、経営に資する財政状況を提供する体制を整備します。

(5) 京都橘中学校・高等学校と京都橘大学との連携強化

- ・学園の総合的な発展のために、中学、高等学校、大学間の教学連携を強化し、高校から大学への内部進学を質量共に充実させます。
- ・中学、高校、大学を設置する総合学園としての利点を活かし、また、早期に大学の専門分野の学問に接することで各自の興味・関心を明確にし、学習意欲の向上を図り、大学における学びへのスムーズな移行を目的として、中高大連携授業を展開します。

(6) たちばな大路こども園と京都橘大学との連携強化

- ・学園事務組織に新たに保育事業部を設置し、学園のネットワークを活かし、たちばな大路こども園の教育・保育支援を支援します。また、地域の保育士・保育教諭のキャリア開発も支援します。

以上